

MDAレポート

No.13号
2011年2月19日

腹部保温による簡単な健康法



「つぼ」とは何か

「つぼ」を一言でいえば、いわゆる「気」といわれる空中にある環境電気エネルギーを、体内に伝達するための取り入れ口であるということが云えます。「つぼ」の電気抵抗は非常に低いものですが、高インピーダンス抵抗計を用いれば極めて容易に検出することができます。

人間の皮膚表面には、この「つぼ」が約1200個所（ヨーガ根本教典には72000本の気道があるとされている）分布しており、それらは28経路にまとめられます。そして、その約半分の経路系は正（プラス）のエネルギーを伝え、主として背部皮膚面にあり、残りの半分は負（マイナス）のエネルギーを伝えて、主に腹部の皮膚面にあります。

さて、この環境電気エネルギーが「つぼ」を通じて正と負の経路系に流れるということは、東洋医学ばかりでなく、物理学の粒子理論でも結論づけられているわけですが、この点についてもう少し詳しく述べることにいたしましょう。

自然界の「電位傾度」

私たちをとりまいている大気は、極めて微弱ながら「電気伝導性」をもち、大気と大地との間に「電場」がつくられており、一般に大気の上層部はプラスに、大地はマイナスに帯電しています。このような屋外環境のなかにあって、大部分は水で構成され、各種のイオンが溶存している私たちの身体は、格好の電気「良導体」となっています。したがって、天気良く、大気上層部が陽（プラス）に帯電していると、陰（マイナス）に帯電している大地から、私たちの身体に常に電流が流れて、外部と接する部位（皮膚、呼吸器、消化器など）から放電されるわけです。これが自然界における大気、大地、生物界の“電位傾度”なのです。そして、その傾度は、おそらく $150\text{V}/\text{m}$ ～ $3000\text{V}/\text{m}$ にも達していると云われております。

※トップページ 電子のはなしVOL. 1をクリックして参照して下さい。

つぼに流れ込むエネルギー

ご存知のように、人類の初期時代は四つ足動物であり、這って歩いていました。そして、この状態で背中に上層大気からの正のエネルギーを受け、腹部、手のひら、足の裏などから、大地からの負のエネルギーを受けて、健康な日々を送りながら進化し、今日の2本足の姿となったわけです。したがって、今日でも私たちは屋外に出ますと、この大気と大地の環境条件に支配され、新鮮な空気のなかで食欲を増し、味、香りまで美味しく感じます。また、大地条件の良いところで腹這いになりますと、気持ちが安らぎ、心地良い睡眠に誘われます。

このような現象は、感覚系、消化器官系、交感神経系および副交感神経系などからでは説明できません。これは、環境の正しい電位傾度に入った人間には、ちょうど雷が避雷針に向かって落ちるように、エネルギーが抵抗の低い「つぼ」に向かって必然的に流れ込むためです。

望まれる生活改善

私たちが常に健康な生活を送って行くためには、良い環境条件と適度の運動、バランスのとれた食物など、なによりもまず総合的な生活改善を果し、予防に努めることが大切ですが、不幸にも環境条件や食生活の悪化から必然的に発生する、難治、不治の病にかかった場合は、まずその原因を取り除くことが必要で、一時的な対症療法や局部療法では到底全治を望むことはできません。

『点』療法から『面』療法

例えば、神経痛患者を見た場合、一目漠然と神経痛と疑う余地はありません。しかし、それはあくまで結果であり、神経痛という病をもたらした原因というものはわかりません。全身治療によって、体質改善をはかりながらその原因

を知り、取り除いていこうというのが、私たちの考え方です。

いままで1200もある「つぼ」を同時に治療するという全身治療は、技術的に不可能でしたが、この療法は、MDA家庭用システムやMDA就寝用電子シートを採り入れることにより、「つぼ」といういわば「点」療法から、「面」療法を可能とし、効果を挙げています。

腹部保温による健康法

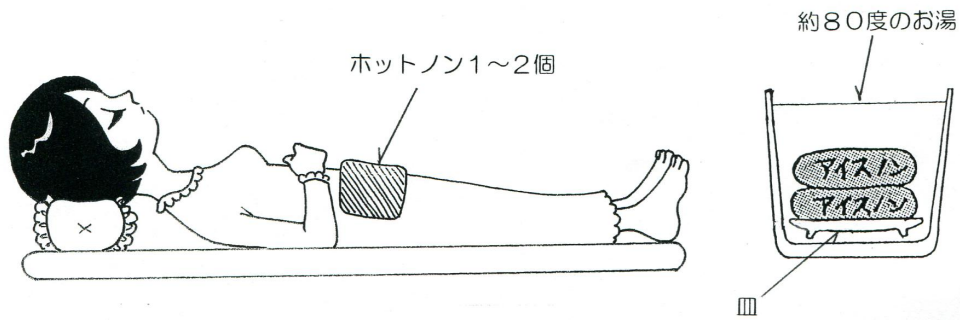
さて、人間が食物をとり、消化吸収する場所は腹部であり、新鮮な空気を腹いっぱい吸い込み、酸素をとり入れて血液をつくり出すところも腹部をおいて他にありません。また、体温の調節も腹部を中心に行なわれています。この大切な腹部保温の方法による健康回復法をとりあげてみたいと思います。

1. おやすみの時、湯上りタオル一枚を腹部に巻く（これを夏冬実行して下さい。朝の目覚めが違います。）
2. 昼間は、長めのタオルかガーゼを腹部に巻く（健康な生活を送るために、幼児から壮年老人まで実行して下さい）。
3. アイスノン（なるべくダブルを）をホットノンにして、おやすみの時は、3ページ図のように使用して下さい。

アイスノンの暖め方

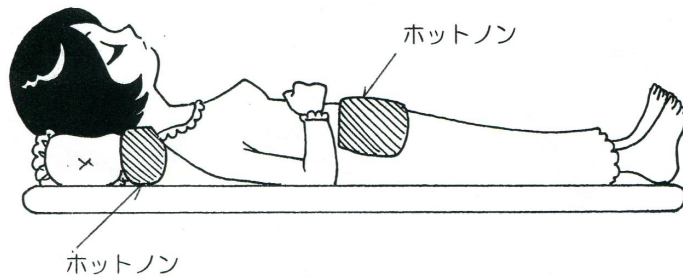
図のように、大きめの容器の中に皿を入れ、その上にアイスノンを置いて、ガスにかけ最初は強火であとは弱火で温度約80度ぐらいで、約40分暖めて下さい。ホットノンしたらうすいたオルに巻いて使用しますが、朝までで保温効果があり、毎日使用してもアイスノンの材質は1年位持ちます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇



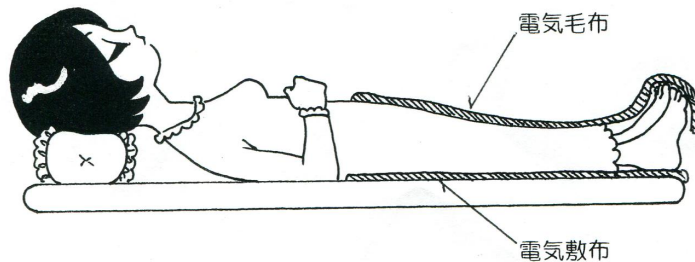
*通常お腹の上に乗せて使用しますが、就寝中、外れるので両わき腹に1個づつ2個使用します。

4. 肩コリや首の張る方は、図のように、首すじ腹部にホットノンを用いて下さい。一晩で疲れがとれます。
(頭部は暖めないようにする)



※この方法で2~5分で吐き気をもよおした場合は首すじのホットノンだけをサーッと取り、腹部だけで使用します。

5. やむえず電気毛布・電気敷布を利用される方は、腹部付近から下に使用して下さい。



※心臓部や肺部に熱を加えないこと。
この方法で肩が寒い場合は両肩にホットノン当てます。

6. フトンの中では、燃焼する保温器は使用しないで下さい。有害ガスなどの影響を受け、呼吸器を痛めません。

家庭生活はむろんのこと、あらゆる産業において、それが一次産業であろうと、二次産業であろうと、私たちの健康問題を無視してはなりません。科学の勝利なるものが、私たちの精神的、肉体的な健康をおびやかすことは許されないので。ところが近ごろでは、人々が疲れや不快を訴えたり、老化を招くケースが多くなってきています。

私たちが健康を保ち、いつまでも若々しい、生きがいのある生活を送っていくためには、これからご紹介するMDA電子シャワーHi GENKIを使用されることをおすすめいたします。

MDA電子シャワー就寝用シート Hi GENKIのご紹介



- 熟睡でき、体がスッキリして軽くなります。
- 快適な睡眠で毎日活力がでます。
- 仕事疲れがなく、能率が上がります。

マイナス・イオンが何故人に良 いか

人体内のマイナス・イオンが減少すると何故体調に変化が生じるかというと、人体は無数の細胞から形成されており、その1つ1つの細胞は細胞膜で包まれていて、細胞はその膜を通じて栄養を吸収したり、老廃物を排出したりして生きています。

この、細胞は外側がプラス・イオン、内側がマイナス・イオンの電子を帯び、マイナス・イオンが少なくなり、プラス・イオンが多くなると、栄養分の吸収や老廃物の排泄が困難になるが現象が起き、その現象が新陳代謝を悪くし、

生理機能の衰えとなって種々な症状へと発展していきます。

マイナス・イオンを自由に補給する、 MDA電子シャワー装置

細胞の状態が悪いとき、細胞にマイナス・イオンを与えればいいのですが、普通は空気中のマイナス・イオンに頼る以外方法がないので、この空気もマイナス・イオンの絶対量が不足していたのでは意味がありません。当社では永い研究の結果電子工学の発達と共に、空気イオンの状況に関係なく、自由にマイナス・イオンを補給することができる装置として、MDA電子シャワーマイナス・イオン発生装置 Hi GENKIを開発しました。

マイナス・イオン健康法

マイナス・イオンは適応症の範囲が非常に広いのが特徴で空気を媒介として肺や皮膚より吸収し、全身の細胞や組織を賦活して若返らせ、しかも障害や副作用の危険が全くなく、その上異常体質から起るいろいろな病気を根本的に予防できます。この方法は全く超感覚的で痛いとか、熱いとかいう様な感じは全くなく、全然自覚なしに使用できるという特色があります。

※MDAレポートは皆様のミニコミです。MDAレポートに関するご批判、ご意見ご提言、皆様の体験レポート（家庭用、工業用）あるいはご質問など何でも結構です。書欄にて当社までお寄せください。

〒921-8831

石川県石川郡野々市町下林4-499-2

丸子電子株式会社

TEL<076>246-6806

FAX<076>248-0103

MDA特性総合研究所

TEL<076>246-6863